



10月度の
の御書

「四条金吾殿御返事」 (煩惱即菩提の事)

御文

法華經の信心をともし
給え。火をきるに、やす
みぬれば火をえず。

(御書新版1522ページ、御書全集117ページ)

意味

法華經の信心を貫いてい
きなさい。火をおこすのに、
作業を休んでしまえば火を
得ることはできません。

「あきらめない人」が勝利の人

こんにちは！ ライオン博士のキング君だよ！

みんなは、キャンプなどで、火をおこすところを
見たことはある？ 今はいろいろな方法があるけど、
日蓮大聖人の時代では、草や木など自然にあるものだけ
を使って火をおこしていたんだ。

「まいぎり式火おこし」といって、まず木の台の上にまっ
すぐな木の棒を立てる。そして、棒にひもをぐるぐると巻
きつけて、つないだ板を上下に動かす。すると、ひもが
棒をグルグルと回転させるよ。ギョルギョル、ギョルギョ
ル……。棒がどんどん速く回ると、台と棒が接している
部分がこすれ合って熱くなってくる。同時にだんだんと、
うでがつかれてくる。それでも、あきらめてはいけないよ。
さらに回すと、けむりが出てきて、こげた木の粉の中に
小さな火種が生まれるんだ。その火種に、かわいた木や
草をそっと近づけると、ほのおが生まれるんだよ。

昔の火おこして、とても大変そうだね。ほのおが出
るまで、と中でやめなかった人だけが、火をおこせるん
だね。

えられているよ。

この御書を書かれたころ、大聖人は大きなはく害にあっ
ていた。とても寒く、食べ物にも困るような場所へ追い
やられていたんだ。それでも、大聖人の心から、世界中
の人を幸せにしたいという“ちかいのほのお”が消える
ことはなかった。

どんな困難にぶつかったとしても、「南無妙法蓮華經」
のお題目を唱え続けられれば、必ずすべてを良い方向へ変
えていくことができる。あきらめそうになる弱い心も、お
題目の力で乗り越えることができると、大聖人は教えてく
ださっているんだ。

大聖人ご自身がつらい状況の中、力強いはげま
しを送ってくださっているね。ボクたちも、日々、お題目
に挑戦していこう。唱題し続けていくことで、ボクたちの
心にも、大聖人と同じ“ちかいのほのお”が生まれる。
目の前の目標に挑んでいける、強い自分へと成長できる
んだよ。

池田先生は次のように語られているよ。『ねばり強い
人』が、りっぱな人です。『あきらめない人』が、勝利
の人ですと。

朝晩の唱題で、負けない心を燃やしていこう！

大聖人は、同じように信心も続けることが大事だと教